

第5章 層位

層位については、2次～5次調査の図や日誌を元に今回整理しなおした（図12～14・表3）。

本書においては、土器については整理した層序に準じ観察表を作成したが、石器・自然遺物・人骨については、各担当者の判断により調査時の層序に基づいて記述してある。

層位は発掘調査時にはローマ数字でⅠ～Ⅹ層と深掘部分でⅩⅠ～ⅩⅣ層に分層されている。調査時点の層位と区別するため今回の整理しなおした層位はアラビア数字を使用した。表3に調査時と今回の整理時の対応を示した。岩陰内のA～Eセクションは、調査次が異なるが概ね一致する。しかし、岩陰外側の4次調査F区におけるFセクションについては、岩陰内とは異なった堆積状況をしている。まず、落盤による礫層とされる8層が確認されていない。次に9層は岩陰内では黒色ベルト層があるが、F区で明褐色土層が分層されずに単層とされている。そのほか、岩陰内の5・7層は礫を含むとされ図化もされているが、岩陰外のF区セクション図には礫は図化されていない。以上のことから、岩陰外のF区は、岩陰内とは堆積が異なると判断し別途記述することとした。以下にセクション毎に個々の層位について記す。

1 表土	9-1 黄褐色土層
2 黄褐色土	9-2 9層第1黒色土層
3 褐色土含礫	9-3 黄褐色土層
4 第1黒色土層 混貝土層	9-4 9層第2黒色土層
5 第1破碎礫層	9-5 褐色土層
6 第2黒色土層	10 青褐色粘土層
7 第2破碎礫層	11 第3破碎礫層
8-1 黄褐色土層	12 青褐色粘土層
8-2 第2破碎礫層	13 第4破碎礫層
8-3 黄褐色土層	14 青褐色粘土層

1～3層は、岩陰最奥部A区においては明確であるが、入口部のC・D区は発見時に掘り出されていたため攪乱となっていたと考えられる。次に4層については、D・Eセクションでは4層中を細かく3層に分けているが、入り口部に近い部分では分層されていない。これは、最奥部の層位の堆積が厚いためと考えられ、基本的には1層とした。

9層は、2次調査では黒色層（2次Ⅹ-Ⅰ）以下をⅩ層としているのに対し、それ以降の3～5次調査では、黒色層上面の褐色土層中にⅧ層とⅩ層の境（3次Ⅷ-ⅣとⅩ-Ⅰ）とされていた。今回の整理作業において、図面の見直し・遺物の出土層位などから3次以降の層序である褐色土層中で8層と9層を分層した。また、A区では、9層まで発掘されていないが、Ⅷ-C層とした層が9-1層に相当する可能性が考えられる。

9層中の分層については、2次調査のAセクションで4細分され、3次調査のBセクションでは6細分されている。セクション図からみると、ABセクションとも2つの黒色バンド（整理層位の9-2層と9-4層）が認められる。この2つの黒色バンドと記されている層が褐色土・黄褐色土と

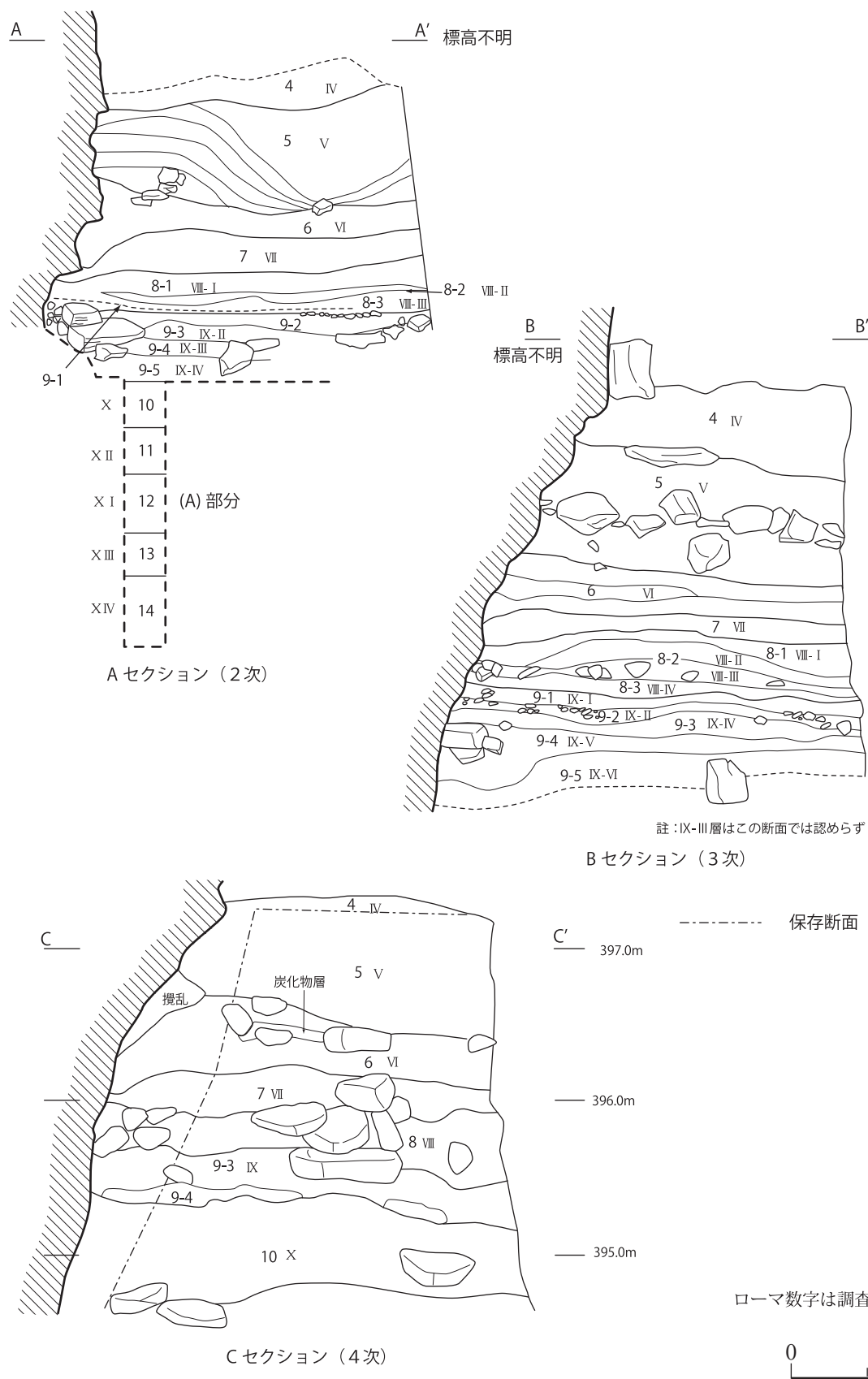


図12 土層断面 1 (S = 1/40)

表3 基本層序

層位		調査層位	Aセクション(2次)	調査層位	Bセクション(3次)	調査層位	Cセクション(4次)	調査層位	D・Eセクション(4次)	調査層位	Fセクション(4次)	調査時所見	整理時確認遺物						
1		I	表土						表土	I	表土	土師器							
2		II								II	黄褐色土	縄文後晩期土器							
3		III								III	褐色粘土層（含礫）	前期竈式土器	隆線文土器・条痕文土器・石鏃						
4		IV	第Ⅰ黒土層	IV	第一黒土層	IV	第一黒土層	IV-A	灰白色混土貝層	IV	黒土層	押型文土器・石鏃・磨石・骨角器・人骨・イス骨	隆線文土器						
								IV-B	黒色混土貝層										
								IV-C	灰褐色混土貝層										
5		V	第Ⅰ破砕層	V	第一破砕礫層	V	破砕礫層	V-A	破砕礫層	V	褐色粘土層（含礫）	無遺物層	無文土器・隆線文土器						
								V-B	大形破砕礫層										
6		VI	第Ⅱ黒土層	VI	第二黒土層	VI	第二黒土層・含炭化物層	VI	黒褐色土層	VI	黒土層	無文土器・石鏃・線刻礫	無文土器・隆線文土器						
7		VII	第Ⅱ破砕礫層	VII	第二破砕礫層	VII	破砕礫層	VII	破砕礫層	VII	明褐色破砕礫層	無遺物層	隆線文土器・有茎尖頭器・スクレイパー						
8	-1	VII-I	黄褐色土層	VII-I	黄褐色土層	VIII	黄褐色土層	VII-A	黄褐色土層		なし	無遺物層	隆線文土器・猿骨・人骨						
	-2	VII-II	礫層	VII-II	破砕礫層			VII-B	破砕礫層										
				VII-III	破砕礫層			VII-C	IX層相当？										
	-3	VII-III	黄褐色土層	VII-IV	黄褐色土層														
9	-1			IX-I	黄褐色土層	IX	黄褐色土層			IX	明褐色粘質土層	有舌尖頭器・尖頭器・石偶（線刻礫・）削器・礫器・隆線文土器							
	-2	IX-I	黒色バンド	IX-II・III	黒色バンド														
	-3	IX-II	褐色土層	IX-IV	黄褐色粘土		黒色バンド												
	-4	IX-III	黒色バンド	IX-V	黒色バンド														
	-5	IX-IV	褐色粘土	IX-VI	褐色粘土														
10		X	青褐色粘性土層	X	青褐色粘性土層	X	青褐色粘土層			X	破砕礫層	無遺物層							
11		X I	破砕礫層									無遺物層	剥片 1						
12		X II	青褐色粘土層									無遺物層							
13		X III	落盤層									無遺物層							
14		X IV	青褐色粘土層									剥片 2 点							

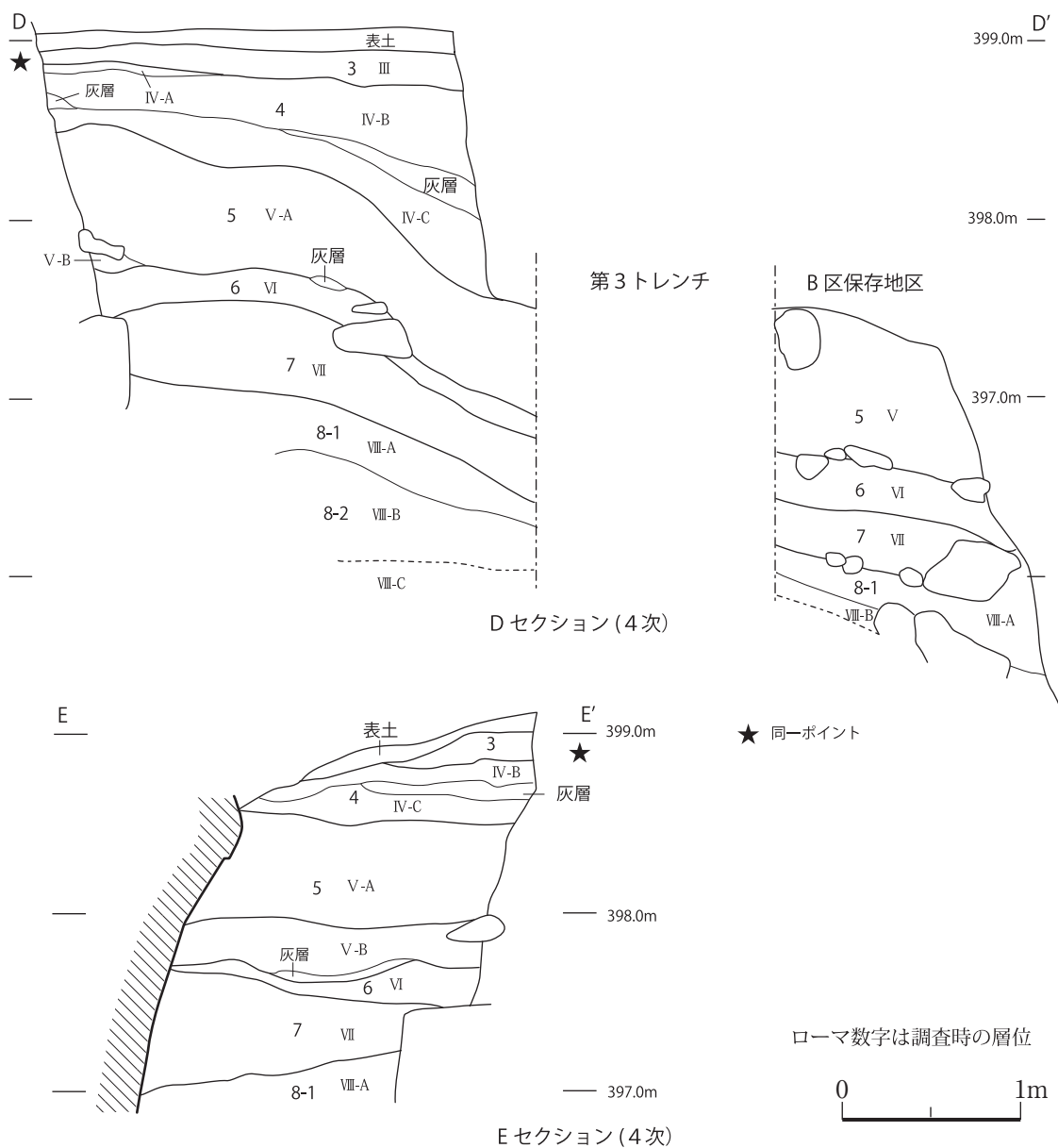


図13 土層断面 2 (S = 1/40)

交互になると考え、整理時に9層は9-1・9-2・9-3・9-4・9-5の5細分とした。ただ、3次調査においてIX-Ⅲ層という層が発掘面のみ認められ、セクション面では消滅していると記されているが、こういった層位なのかは説明されていなかった。しかし、このIX-Ⅲ層とされた層位からは特にC拡張区とされる岩陰奥壁部分から多くの遺物が出土している。9層は、2次Aセクション・3次Bセクションともに、間に褐色・黄褐色土をはさみ2枚の黒色土層が堆積している。3次において2次におけるIX-Ⅲ層を踏襲したとすると、9-4層（第2黒色ベルト）に相当することになるが、3次ではIX-V層が第2黒色ベルトとなっており、間にIX-Ⅳ層とする黄褐色土層が存在するので9-4層（第2黒色ベルト）とは考えにくい。おそらく第1黒色ベルト土層に準ずる層で、内

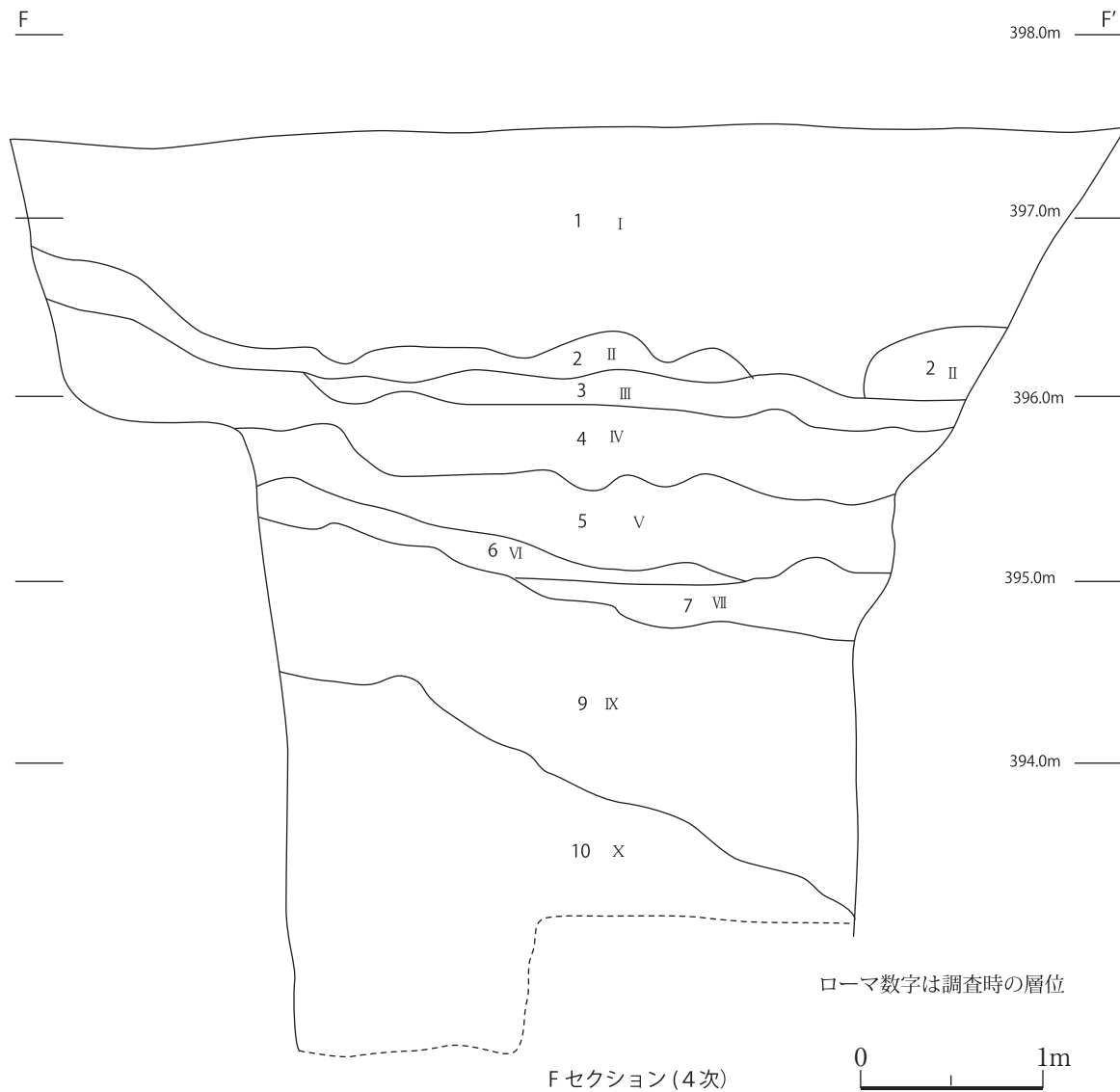


図 14 土層断面 3 (S = 1/40)

容物（小礫や炭化物など）が若干の差違があるのではと結論付け、IX-IIIは9-2層と位置づけた。
なお、3次調査分のC区出土IX-III層出土遺物については、観察表内の出土層位は9-2'と記載した。

4次F区におけるFセクションの個々の層位を整理すると、つぎの通りである。

- | | |
|-------------------|--------------------|
| 1 表土 | 6 第2黒色土層 |
| 2 黄褐色土 | 7 褐色粘土層含礫（第2破碎礫層？） |
| 3 褐色粘土層 | 9 褐色粘土層 |
| 4 第1黒色土層 混貝土層 | 10 破碎礫層（11層に相当？） |
| 5 褐色粘土層含礫（第1破碎礫層） | |

（小林謙一・小林尚子）